

会議録

日時	令和8年4月21日(火)14:00~16:00
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和8年度 第1回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員:伊藤恭司、井貝順子、平尾巖、板橋晋司、工藤将哉、磯貝直美、鈴木圭子、加藤一哉、 曾我順一、加納礼爾、松井克仁 欠席:なし 市関係者:伊藤慶和(教育長) 事務局:加納素介(中央公民館副館長)、中村勝、工藤菜々子(生涯学習課)
議題	<p>1 委嘱状の交付(瑞浪市教育委員会より)</p> <p>2 挨拶(瑞浪市教育長) 昨年度の提言書を見て、様々な方面から調査し、課題も含めた方向性を示されていて、瑞浪市のまちづくり、コミュニティ・スクールなどの発展に充分寄与する内容であると思った。 子どもは安心して過ごせることで、いろいろなことに挑戦でき、それが逞しさにつながると考えている。安心して過ごせる家庭や地域になるほど、子供たちはよりよい未来の実現に挑み続ける力を養うことができる。 市のPTA連合会、青少年育成市民会議も手を尽くしてくださっているので、社会教育も市全体で協力して活動していくことができればと思う。 回数が限られている委員会のため、一つ一つの委員会で意見を精一杯出していただき、充実した委員会になるように祈念する。</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4-1 代表挨拶 一番年数が長いということで代表を務めさせていただき、皆さまのお力を借りながら進めていきたいと思っている。新しい方を含めた10名の委員さんの話を聞いて、大変心強く思った。それぞれいろいろな立場で、いろいろな経験をしていて、いろいろな取組もなされてきていることがよく分かった。 社会教育というものは、学校教育と比べて非常に認知度が低いので、少しでも市民の皆さんの認知度を上げたいという思いもあり、初めて広報誌に記事を載せていただいた。市民の皆様にごうものがあると知っていただきたい。 社会教育委員会というのは非常に間口も広く、奥も深いので、多様な意見や考えがより良いものを生み出していくと思っているので、ぜひ忌憚のない意見を伺いたい。</p> <p>4-2 社会教育委員会代表及び副代表の選出(互選) 互選により、代表に加藤一哉委員、副代表に平尾巖委員と決定した。</p> <p>5 社会教育委員の役割(事務局)</p>

6 県・東濃・市の方針と重点(事務局)

7 充職役割分担 下記のとおり決定。

- ・社会教育振興協議会 理事 加藤一哉 代表
- ・青少年育成市民会議専門部会部会員 伊藤恭司 委員
- ・図書館協議会委員 磯貝直美 委員
- ・点検評価委員 加納礼爾 委員
- ・人権施策ネットワーク委員 鈴木圭子 委員

8 その他(研修に係る情報提供)

地域学校協働活動推進員等育成研修(6/23(火)、8/25(火)、9/29(火)、11/24(火))

9 昨年度までの取組について

- ・調査・研究テーマ「ふるさとに誇りが持てる世代間の交流促進について」

少子高齢化が進んでおり、少しでも瑞浪市を活性化させるために、世代間での交流を促進できないか。

10 令和8年度のテーマと研究について

「家庭教育支援について」(案)

今年度の方向性合意、テーマについての感想や意見交流

意見 地域で子供を育てるといえば、大きなことをしなくても地域の人の声やフィードバックが横からの家庭教育支援につながるのではないかと。親と子供の日常的なコミュニケーションのとり方等、些細な部分に目を向けた多様な家庭教育支援が必要ではないかと。

意見 子育て世代は家を空けられないので、対象となる講座に参加することができない。
→どの時間帯に開催すれば安心して参加してもらえるか。予算なども踏まえ、中学校区などの大きな大会にPTAが参加する仕組みにしてもよいのでは。

意見 ハートピアでも教育支援をしており、子どもの勉強の手伝いをしている。こういった地域のネットワークがもっとあると良いのでは。

意見 少子高齢化からくる負担から、瑞浪市子ども会連合会からの脱退や子ども会行事がなくなっており、危機感を感じている。地域での活動について、今の保護者世代へ価値を提供する、活動へのモチベーションを保つ工夫が必要では。地域に任せきりではなく、市でも支援を認めていただけたらと思う。

意見 現状保護者同士の関係も希薄で、支援がしづらい。地域が各家庭の現状を知ることができれば、どこまで切り込めばよいかわかるのでは。数値化できるものがほしい。幼、小、中それぞれの家庭の構成や実態をみることで今後の未来が見えてくるのでは。

意見 まちづくりも家庭教育支援と関係あることをしているのでは。ボランティアや祭りなどを生かして、地域とのつながりを作れないか。自分たちがそういった活動の場を知り、広めていくことが大事。

意見 地域と子供たちの関係づくりができないと、地域が子どもたちを育てるということは難しいと思う。親子間はもちろん、地域の大人との交流も子どもの役に立つと感じ、同時に必要なことであると思う。

意見 家庭教育支援について、外部からアプローチする側は「家庭はどのような支援を必要として

いるのか」、「どういった家庭教育像を求めるか」の概念をもっておいた方がよい。すると、まちづくり、公民館、祭り、コミュニティ・スクールなどアプローチが変わるはず。

11 令和8年度の活動計画(案)
資料(案)のとおりとする。

12 閉会の言葉(副代表)